

調査名		孔番・深度		観察日										
		H27 B-2 (140 ~ 145)		H27 7/24 7/26										
標尺 140 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質					ROD
	140.04													140.04 ~ 140.65 (16) は厚210cm 以上の砂状粗粒化部は合弁(20%) 割れ目粗粒化厚21~5% 程度にφ1~3% 砂状粗粒化と割れ目と多く含む。 割れ目密度が低い「中層割れ目」の傾向が認められる。粘土層の割れ目は少ない。
	05													
	141													141.10 ~ 141.18 40° 割れ目粗粒化。φ5~10% 硬質高層(硬1%) も多く含まれる。
	05													
	142		Gp	灰岩										141.96 ~ 142.23 互いに18° 逆斜の60° 卒と30° 卒の割れ目と粗粒化(φ5~10% 卒) と合弁化(2%)。割れ目粗粒化と硬質の一部厚1~2% 程度に砂状粗粒化と合弁化を含む。
	05													
	142.81													142.81 ~ 143.90 割れ目間隔が上下位に比べて広くφ200 密度が低い割れ目中層割れ目と多く含む。
	05													
	143													143.51 ~ 143.70 m. 上端60°, 下端70° 割れ目粗粒化粗粒化。粘土色を呈する。粗粒化粗粒化と合弁化(φ5~10% 卒) と合弁化(2%)。粗粒化粗粒化。60° 厚5~10% 石英粗粒化(1) 卒。
	05													
	144													
	05													
	144.90													
	145													

調査名		孔番・深度		観察日												
		H27 B-2 (145 ~ 150)		H27 7/24 7/26												
標尺 145 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等				
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質			
05	145.65			7.5YR 6/1 褐色	✓ c	✓ V	✓ c	Y	2							
146																
05																
146																
05																
147			Gp	7.5YR 7/2 明褐色												
05																
147																
05																
148																
05																
149																
05																
150				7.5YR 6/1 褐色												

145.65 ~ 146.26 m: D
 大半が割れ目による風化の塊石。粘り状の泥、中5~20%の残留新鮮の空の砂礫石~碎屑状を呈し、一部少量の白色~暗緑灰色粘土の賦存に分布。

146.26 ~ 146.91 m: D
 146.91 ~ 147.01 m は硬質「D」部、147.01 ~ 148.01 m は硬質「C」部、中5%に分布。

146.91 ~ 147.01 m: D
 146.91 ~ 147.01 m は硬質「D」部、粘り状の泥、中5~20%の残留新鮮の空の砂礫石~碎屑状を呈し、一部少量の白色~暗緑灰色粘土の賦存に分布。

147.01 ~ 148.01 m: C
 147.01 ~ 148.01 m は硬質「C」部、粘り状の泥、中5~20%の残留新鮮の空の砂礫石~碎屑状を呈し、一部少量の白色~暗緑灰色粘土の賦存に分布。

148.01 ~ 148.26 m: C
 148.01 ~ 148.26 m は硬質「C」部、粘り状の泥、中5~20%の残留新鮮の空の砂礫石~碎屑状を呈し、一部少量の白色~暗緑灰色粘土の賦存に分布。

148.26 ~ 149.19 m: C
 148.26 ~ 149.19 m は硬質「C」部、粘り状の泥、中5~20%の残留新鮮の空の砂礫石~碎屑状を呈し、一部少量の白色~暗緑灰色粘土の賦存に分布。

149.19 ~ 149.69 m: D
 149.19 ~ 149.69 m は硬質「D」部、粘り状の泥、中5~20%の残留新鮮の空の砂礫石~碎屑状を呈し、一部少量の白色~暗緑灰色粘土の賦存に分布。

149.69 ~ 150.00 m: C
 149.69 ~ 150.00 m は硬質「C」部、粘り状の泥、中5~20%の残留新鮮の空の砂礫石~碎屑状を呈し、一部少量の白色~暗緑灰色粘土の賦存に分布。

調査名		孔番・深度		観察日								
		H27 B-2 (150 ~ 155)		H27 7/24 9/6								
標尺 150 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
0	150.00											↓ 砂 質 砂 岩
	150.22											
0.5	150.52											
151	152.10											
	152.11											
0.5	152.15											
	152.51											
152	152.10											
	152.11											
0.5	152.15											
	152.51											
153	152.10											
	152.11											
0.5	152.15											
	152.51											
154	153.59											
	153.60											
0.5	153.76											
	154.53											
154	154.53											
	154.58											
0.5	154.71											
	155.00											
155	155.00											

調査名		孔番・深度		観察日								
		H27 B-2 (155 ~ 160)		427 7/24 7/26 8/4								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
155	155.00											154.50 m: Hc-1 36° 上端は傾斜して、下端は近水平的に連続。φ1~2% 石英粒と粘土(5%以内)を含む粘質粘土(6.5%)。色調は上下端側6% 褐灰(7.5YR 6/1)、中央部灰赤(2.5YR 6/2)の縞状に呈す。厚さ5%。 154.50 ~ 154.71 m: Hc 上端は36°に連続的、下端は65~70°で湾曲して連続。50~70°の粘質粘土が主で、φ1~5%の粘土が片状化。断面10~12幅1~3%の明緑灰~緑灰色の粘質粘土が、粘土中の粘土質粘土と呈す。色調は12.5YR 7/4 ~ 明緑灰(10.5Y 7/1)、厚さ5%。 154.71 ~ 155.00 m: D 粘土質(粘土) 部分に呈す。 155.00 ~ 162.00 m (2区): C _L
05			2.5YR 7/4 明褐灰	✓	✓	✓	✓	3	0	5		
156	156.00											156.25 ~ 157.00: 厚さ 7~8% φ2~3% の片状化 断面に粘土質粘土と粘土部分に呈す。 157.20 ~ 158.00: 厚さ 1~10% の固結状部。φ1~2% の粘土質粘土部と10~20° 上下位方向に連続す。下端は158.24 mで、下部面は粘土と粘質粘土に呈す。
05												
157	157.00		Gp 7.5YR 6/2 灰褐						0	2		
05												
158	158.00											158.00 ~ 158.20 m φ5~10% の粘質粘土部と固結状部と呈す。
05			10.5Y 5/1 緑灰	✓	✓	✓	✓	3	0	4		
159	159.00											
05												159.06 ~ 159.33 m 断面に粘土質粘土と粘土の粘質粘土部。厚さ 2~20% 分布。 粘土質粘土と粘土質粘土。φ10 160.00 mに呈す。
160	160.00											159.78 m, 160.00 m 厚さ 1~10% の粘土質粘土と粘土に呈す。

160.00

調査名		孔番・深度		観察日							
		H27 8-2 (160 ~ 162)		H27 7/24 '16							
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ				
	160.12			16A00			γ				<p>160.00 ~ 161.68m 緑泥石化は部分的、一部の割れ目に流線状に認められるが、一部はE1帯。</p> <p>160.81m、70cm厚 5~10μm 白色珩状物(方解石)が分布し、その上部と下部に厚さ1~3cm 固結した緑泥石化層を伴う。</p> <p>160.98 ~ 161.01m はφ 5~30%の角片に碎けた緑泥石化した岩片が一部に認められ、その一部は粘土質の付着層を伴う。</p> <p>161.08m は浮石部相に暗緑色の緑泥石化、割れ目に緑泥石の付着・粘土質の付着が認められる。全体にφ 10~30%と細かく碎けた岩片、岩片の硬さはE1帯と同等のものを伴う。</p> <p>(注)</p>
	160.50			7.5YR 5/4 16A00 緑泥	c	V	δ	3			
	160.75		GP		c	V	γ	3		0 3 C _L	
	161.68			10.5Y 5/1 緑灰	c	V	B	γ	3		
	162									0 4	

H24-B14-2

第四系コア観察カード

調査名		孔番	観察日				
		B14-2	2012 7/31				
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ 火山灰物 土具木片 化石	地質名	色調	堆積構造・特徴等
0			0				0 ~ 6.66 m : 埋土 (bK層)
1			1		埋土	ZSYR 5/6 明褐	<p>0 ~ 3.47 m : 礫:シルト混入砂 10% 程度混入。 φ 5 ~ 30 mm の角 ~ 亜角礫と 5 ~ 10% 程度混入。 砂は粗 ~ 細粒砂で少量のシルトを含有不均質である。 礫種は花崗斑岩, 安山岩 (玄武岩), 石英と硬質礫石同様に混入する。 礫の混入状況は不均質で、下部の部分が上部の層が認められる。</p>
2			2				bK層
3			3				
4			4			N5/6 灰	<p>3.47 ~ 3.93 m : グリート 柱状コアにて採取。硬質である。</p> <p>3.93 ~ 4.28 m : グリート 花崗岩。φ 20 ~ 70 mm の角礫主体</p>

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩 Gr, 花崗斑岩 Gp, アプライト Ap 等
 境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

2012

調査名		孔番		観察日			
		B14-2		7/31			
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ-	地質名	色調	堆積構造・特徴等
				○ 灰物 〰 山質 〇 炭土 〇 具木 〇 化石 〇 片			
4	4.28				埋土	N4/0 灰	4.28~6.66m: 沖混り礫質砂 細~粗粒砂の砂に不均質な砂に沖と礫の混り。礫はφ2~30mmの亜角礫を主とし、礫含有率10~20%程度。風化礫の付着礫を混入。礫種は花崗斑岩を主とし、稀に安山岩礫を混入する。
5	5.13 5.19					10YR 4/6 褐灰	5.13~5.19m: 有機物混り砂。砂は中~粗粒砂で沖産産物を混入。全体に若干有機質がある。
6	6.66					10YR 4/6 褐灰	6.66~6.82m: 礫質砂 6.66~6.82m: 少量の粗粒砂で混入粗粒砂。少量の粘解片を混入 6.82~8.08m: 細~粗粒砂の砂(2.43m以下は沖と混入) 全体にφ2~5mmの細礫を混入。細礫は角~亜角礫を主とする。礫種はGp, Ap, 及び石英を主とする。上部7.10m付近に石英細礫(φ5~10mm程度)が多く混入する。炭化物の礫状に混入。 7.10m~7.50mの風化礫及び半風化礫混入。 7.50m付近、未分解の植物混入する。 6.82~7.10m: 上部は沖質 下部は礫質となる。 7.70m付近 炭化物を混入する。
7	6.82				礫質砂	10YR 4/6 褐灰	6.66~8.39m: 礫質砂 6.66~6.82m: 少量の粗粒砂で混入粗粒砂。少量の粘解片を混入 6.82~8.08m: 細~粗粒砂の砂(2.43m以下は沖と混入) 全体にφ2~5mmの細礫を混入。細礫は角~亜角礫を主とする。礫種はGp, Ap, 及び石英を主とする。上部7.10m付近に石英細礫(φ5~10mm程度)が多く混入する。炭化物の礫状に混入。 7.10m~7.50mの風化礫及び半風化礫混入。 7.50m付近、未分解の植物混入する。 6.82~7.10m: 上部は沖質 下部は礫質となる。 7.70m付近 炭化物を混入する。

bk層

6.66 m

bp層

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 --- 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日					
		B14-2		8/1 2012					
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ-	地質名	色調	堆積構造・特徴等		
				火山灰物 炭質土 化石 木片					
8	9.08			○ r r ○ ○	礫質砂 褐灰	10YR 6/1	8.08~8.39m: 砂は石英、珪石主体の粗~中粒砂。均質である。 8.30m以下から若干の有機物を混入。 8.39~8.83m: 砂質有機質シルト		
	8.11						砂質 有機質 シルト	10YR 3/2 黒褐	8.39~8.53m: 750mm角礫を混入。粗粒砂を主とし、8.40~8.45m以下 6H7方位角に炭化材を混入。 8.53~8.83m: 砂質有機質シルト
	8.23								8.53~8.83m: 45~50°傾斜で有機物および炭化材を混入。 砂質粗粒砂を主とし、粗粒砂を20%程度に混入。 8.83m付近に粗粒砂の薄層E122あり。
	8.37						有機物 混り砂	10YR 6/1 褐灰	8.83~9.54m: 有機物混り砂
	8.53								8.83~9.54m: 有機物混り砂
	8.53						有機物 混り砂	10YR 3/1 黒褐	9.54~9.64m: 有機物混り砂
	8.55								9.54~9.64m: 有機物混り砂
	8.83						有機物 混り砂	10YR 3/1 黒褐	9.64~9.71m: 有機物混り砂
	9.00								9.64~9.71m: 有機物混り砂
	9.10						有機物 混り砂	10YR 3/1 黒褐	9.71~9.77m: 有機物混り砂
	9.11								9.71~9.77m: 有機物混り砂
	9.26						有機物 混り砂	10YR 3/1 黒褐	9.77~9.84m: 有機物混り砂
	9.30								9.77~9.84m: 有機物混り砂
	9.54						有機物 混り砂	10YR 3/1 黒褐	9.84~9.94m: 有機物混り砂
	9.64								9.84~9.94m: 有機物混り砂
10	10.50	砂礫	2.5Y 7/8 黄	9.94~11.12m: 砂礫 φ2~50mmの花崗斑岩礫が主体。 基質は少量の粘土分を混入する粗~中粒砂。 9.94~9.97mにφ17cm玉石混入					
10.74	10.70~10.72m 細礫を薄層状にはいる。								
11	11.12	礫混り 砂	5Y 8/2 灰白	11.12~12.04m: 礫混り砂 φ2~5mm石英角礫を5~10%程度混入する。 砂は粗~細粒砂を主とし、少量のシルト分を混入する。 11.40~11.42m 幅10mmの灰白色シルトをはいる。 11.53~11.55m 幅15mmの灰白色シルトをはいる					
11.66	11.66~11.99m: 2314								
11.77	11.77	礫混り 砂	2314	11.77					
12	11.77			11.77					

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番	観察日				
		B 14-2	2012 8/2				
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ-	地質名	色調	堆積構造・特徴等
				火山灰物 炭質土壌化石 貝片			
12	12.04				有機質混り砂	2.5YR/6 橙	12.04~12.67m: 有機物混り砂 細砂~中砂を主とし、部分的にシルト質(有機物混り)となる。有機物は20~30°傾斜する。 12.13m付近: 有機質シルトの薄層。 12.27~12.41m: 厚さ4cmの有機質シルト。 12.65~12.67m, 12.70~12.72m: 有機質シルトを薄層状に挟む。 12.69~13.09m: 有機物混り砂質シルト シルト~中砂が主なり、全体に有機物が混じる。 12.76~12.85m間: 石英斑岩の亜角礫φ2~4cmが主体となる。 12.85~13.09m間: 砂泥に粘土化、下部砂質粘土状もある。 上部13.00m付近には有機物を多く含むが、下部に比べて少なくする。 13.09~13.86m: シルト混り砂 細砂を主とする砂に、全体にシルトが混じる。 13.30付近から色調変化。 13.17~13.60m付近 シルト~粘土分を10~20%混入する。 13.40m付近、φ5~7mmの石英礫を約5%混入。 13.60~13.80m付近、粒径の均一な細~微細粒砂になる。 13.86~16.24m: 砂礫 φ2~40mm(最大350mm)の亜角~亜円礫を主とし、所々φ40~70mmの円~亜円礫が混入する。 礫種は花崗斑岩の主体。礫含有率50~70%程度。 基質はシルトの混じる不均質な砂からなる。 半クサリ: 硬質 = 1:1 15.08~15.17m Ap. 玉石。 15.42~15.50m 風化 Gp 玉石。 15.70~16.00m Gr 岩塊。
	12.69				有機物混り砂質シルト	10Y 6/1 灰	
	13.09				シルト混り砂	2.5Y 5/1 灰	
	13.30				シルト混り砂	2.5Y 4/6 褐	
	13.57				砂質シルト	2.5Y 4/4 黄	
	13.80						
	13.86						
14					砂礫	2.5YR 3/4 暗褐	
15							
16							

BP層

13.86m

Csg1層

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番	観察日				
		B14-2 (16-17)	8/3				
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ-	地質名	色調	堆積構造・特徴等
				火山灰物 炭質土 貝化石 木片			
16	16.24				砂礫 Gp	暗褐 5YR 6/1 7.5YR 8/1 R6	・砂礫とGpの境界は、密着(2本)。 ・45°程度を示す。 ・16.24m 花崗斑岩着岩 変質若い、軟質化好 全体
							Csg1層 16.24m Gp

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
 境界 明瞭 — 不明瞭 --- 亀裂は赤線, 角度, 条線等

調査名		孔番・深度		観察日							
		B14-2 (15 ~ 20)		8/3							
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ				
15											
16	16.24		Csg	16.24				16.24			<p>16.24 Gp着岩</p> <p>Gpの斑晶は中28mmの石英・長石を主とし、中2~5mmの黒雲母が混じる。石基は優白色である。</p> <p>16.24~18.68 強風化・変質部。 全体に変質が認められ、淡く色帯の付いた灰白色を呈する。 局所的に硬い所があるが、全体的に針貫入可能である。</p> <p>16.24~16.94m 30~50の割れ目跡が、1~2cm間隔で発達する。白色細粒物を1mm~1cm程度、下位に比べて、岩石組織を残している。①</p> <p>16.94~18.0割れ目不明瞭となる。 17.30~17.58m 岩石組織不明瞭となる。 指圧で石の混じりシルト状に崩れる。</p> <p>18.04~18.68m 割れ目程度の変質が著しく、新鮮硬質部と硬質部を残している。 250~70°及び70°程度の割れ目跡が認められ、①軟質部は針貫入可能である。 18.23~18.37m間 割れ目の発達部。上端40°、下端不明瞭。</p> <p>18.68~19.89m 変質著しく、割れ目、岩石組織をほとんど残さない。 全体に指圧で変形するほど軟質である。</p> <p>19.19~19.50m、中20m 灰白~淡黄褐色を呈する。シルト石の混じり粘土脈分布、75°角で凹凸する。</p> <p>19.00~19.25m } 19.55~19.89m } 変質部は、淡黄褐色を呈する。</p> <p>19.89~20.29m、2~10mm程度の間隔で細粒の割れ目が発達し、変質部を呈する。シルト石の混じり程度は、1mm程度である。 岩片は、硬質である。</p>
	16.54		Gp.		d	VI	E	8	3		
	17.30										
	17.58				d	VI	E	8	4		
	18.04				d	VI	E	8	4		
	18.55										
	18.68										
18	18.04			18.04	d	VI	D	Y	4		
	18.55			18.55							
	18.68			68							
	19.89			89	d	VI	E	8	3		
20	19.89			89	d	VI	D	8	3	0	0

調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 (20 ~ 25)		8/3 ~ 8/9								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
20	20.29		10YR 8/1 灰白	d VI	D	8	3				<p>○ 20.05 ~ 20.29 m. 風化・変質作用(乏), 全体的に軟質化している. 岩片状に付硬質な部分を破砕が斜貫入可能であった.</p> <p>上端(20.05~20.09 m)及び下端(20.24~20.29 m)は, 変質著しく「礫混土」シムキと見られる. 下端はL64で下位と境される.</p> <p>○ 20.29 ~ 20.30 m. 上位と比べて, 風化・変質の影響弱くなるが, 微細な割れ目付全体に発達し脆弱.</p> <p>○ 20.48~20.52 m, 中15mm L24 } 変質粒(砂混土)塊状 ○ 20.72~20.74 m, 中12mm L40 } ○ 20.83 ~ 20.84 m, 中5mm L68 }</p> <p>21.00 ~ 21.20 m 全体に割れ目が発達し「短柱状」.</p> <p>21.10 ~ 21.15 m は短柱状コア.</p> <p>21.67 ~ 21.74 m 幅3mm, 50°の灰白色粘土質砂.</p> <p>21.73 ~ 21.75 m φ1~3cm程度の礫状コア.</p> <p>22.37 ~ 22.63 m. 細粒割れ目発達, 割れ目に沿って.</p> <p>○ 22.63 ~ 23.71 m. 割れ目多し φ1~3cmの角礫状コア.</p> <p>23.71 ~ 23.85 m: 長さ3~9cmの短柱状コア. 23.81 m付近の割れ目の面に黒色粘土と鉄石.</p> <p>○ 23.85 ~ 24.48 m. φ1/5cmの片状コアと見られる. 岩片は石質で「硬」であったが, 割れ目沿いに, φ0.2~1cm程度の細片化が認められる.</p> <p>○ 24.48 ~ 25.88 m. φ0.5~3cm程度の礫状~片状コアと見られる. 割れ目として認識できなかった. コア採取時に細粒分を流失している. 特に, 25.20~25.27m間, φ5mm以下のものを流失している. 岩片は石質で, 風化・変質の影響少ない.</p>	
	20.29		5YR 7/1 明褐色	d VI	D		3					
	20.45		7.5 YR 6/2 明褐色	d VI	D		3					
	20.70		5YR 7/1 明褐色	d VI	D		3					
21	21.00		7.5 YR 6/2 明褐色	c V	C		3	0	2			
	21.10			d VI	C		3					
	21.15			d VI	C		3					
	21.20			d VI	C		3					
	21.61		5YR 7/1 明褐色	c V	C		2					
	21.67			c V	C		2					
	21.76			c V	C		2					
22	22.21			c V	C		2					
	22.28			c V	C		2					
	22.37		5YR 7/2 明褐色	d VI	D		3					
	22.63		21.65	c V	C		2					
23	23.71		5YR 7/1 明褐色	c V	C		2					
	23.85			c V	C		2					
24	24.48		48	d VI	D		3	10	10			
25				d VI	D		3	0	4			

調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 (25 ~ 30)		8/9								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
25	25.12		Gp	明礫灰								○ 25.88 ~ 26.62m. 土砂 ~ 礫状を呈するコア。 ・ 岩片は、φ5 ~ 15mm 程度のものが多く、25.88 ~ 26.12m 間は φ5 ~ 50mm のものを主体とする。 ・ 基盤相階部は、シルト混じりの塊状で、不規則にマンガン浸染されている。 ・ 指圧で変形するほど軟質である。
	25.88			5YR 5/1 礫灰	d	V	D	Y	2			
26	26.62		Gp	5YR 5/1 礫灰	d	VI	E				D	○ 26.62 ~ 27.28m. 5 ~ 15mm 程度で、細粒の割れ目が発達し、割れ目の間に岩質劣化し、土砂 ~ 片状を呈する。 ・ 27.28 ~ 27.62m. 上位と比べて割れ目の間の岩質劣化は弱く、1 ~ 3cm の岩片状コアを呈する。 ・ 27.47 ~ 27.62m. $60 \times 65^{\circ}$ の割れ目角、1.5 ~ 2.5cm 間隔で発達。
	27.28			10YR 7/2 礫灰	C	V	D					
27	27.62		Gp	明礫灰								○ 27.62m. 中1 ~ 2mm 黄褐色土砂混じりシルト、65° (見かけ上2L断層) → <u>逆断層</u> ・ 27.62 ~ 27.97m. 細粒の割れ目密集し、コアは中脆弱である。 ・ 27.92 ~ 28.21m. $60 \times 75^{\circ}$ の密着割れ目角、2 ~ 10mm 間隔で発達する。$20 \times 25^{\circ}$ の割れ目角、12cm 間隔で発達する。後者の割れ目は、マンガン浸染を伴う。 ・ 28.21 ~ 28.50m. 2 ~ 10mm 間隔で微細な割れ目が発達し、コアは全体的に劣化している。 ・ 28.36 ~ 28.45m 間は 30° 程度の微細な割れ目角、1 ~ 10mm 間隔で発達している。
	27.97			5YR 6/2 礫灰								
28	28.21		Gp	明礫灰								○ 28.45 ~ 28.50m. 岩石組織不明瞭である。上 55° の岩片、28.50 ~ 28.66m 礫混層 (手井進行帯28.50) 下 50° の岩片、28.50 ~ 28.62m. 砂質土砂混じりシルト、23 ~ 30mm、上端 60°、下端 40° の割れ目角、上・下ともに $1 \sim 1.5\text{mm}$ 黄褐色土砂混じりシルト (Hb)。 ・ 28.50 ~ 28.51m. 砂質土砂混じりシルト破砕層 (Hc-2)。 ・ 28.50 ~ 28.66m. 砂質土砂混じりシルト (Hj)。中12cm、上端 40°、下端不明瞭。 ・ 全体に、岩石組織不明瞭で、不規則に粗粒細粒が混在する。 ・ 下端は、岩質劣化部を呈し、境界は不明瞭である。
	28.50			5YR 6/2 礫灰	d	VI	E	δ	4			
29	28.76		Gp	5YR 6/2 礫灰	C	V	D	δ				○ 28.66 ~ 28.71m. 土砂状を呈する岩質劣化部。 ・ 28.71 ~ 29.45m. 40° 及び 60° の割れ目角、2 ~ 6cm 間隔で発達し、交錯し、コアは、片状を呈する。 ・ 割れ目の間には、(Hb) マンガンが伴う。 ・ 28.80 ~ 29.16m 間は、土砂と $50 \times 70^{\circ}$ の岩片を呈する。 ・ 29.16 ~ 29.45m 間は、風化・変質進行し、岩質劣化し脆弱。 ○ 29.45 ~ 29.91m. 岩石組織、割れ目不明瞭である。 ・ 針貫入可能で、指圧で容易に崩れる。 ・ 29.76 ~ 29.81m. 礫混層を礫状に含む。 ・ 29.81 ~ 29.87m. マンガン浸染帯がある。
	28.91			明礫灰	d	VI	E		4			
30	28.91			明礫灰	C	V	C		3	0	9	○ 29.91 ~ 30.21m. 片状コア。

調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 (30 ~ 35)		8/10, 14								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
30	30.21		Gp 明礫灰	C	V	C	δ	3	16	16	C _L	<ul style="list-style-type: none"> 29.91~30.21m: 40~55°の割れ目角 0.2~2cm間隔で発達。割れ目に沿って岩石組織が不明瞭となる。コアは全体に褐色を帯びる。 30.13m 中1cm, 43°黄白矽化粘土塊。上壁側に1/10~15mmの岩質劣化部を伴う。 30.21~32.40m: 40~50°の割れ目角 3~15cm間隔で発達し。柱状コアを主体とする。割れ目角に黄褐色化は認められるが、岩質は硬質である。30% 磁化磁球 30.28~30.44m: 長16cmの柱状コア。 30.62~30.72m: 40°程度の割れ目角 3~10mm間隔で発達し。上下位と比べて、中岩質劣化する。 31.55~31.73m: 40°と46°以上の割れ目角 3~5cm間隔で発達し。コアは片心短柱状を呈する。 32.40~32.67m: 45~60°の割れ目角 1cm間隔で発達し。割れ目沿いに岩質劣化が進行する。一部は岩石組織不明瞭となる。 32.67付近: 40~50°の割れ目角 片心不規則な割れ目角 1~2cm間隔で発達し。コアは片心を呈する。割れ目沿いに岩質劣化が認められるが、岩石は硬質である。 32.67~32.91m 上下位と比べて割れ目間隔が広くなり、コアは片心短柱状を呈する。 32.91~32.01m 不規則な割れ目角で発達する。30% 32.01~35.14m: 硬質片心短柱状コアを主体とする。45~60°の割れ目角 3~6cm間隔で発達するほか、45°以上の高角割れ目角 30~60cm間隔で発達する。一部割れ目沿いに岩質劣化し、粗粒状を呈するところがある。 33.72m: 45°の割れ目角に黄白矽化粘土付着。コア採取時材料を洗出し、詳細は別用。 34.20~34.46m: 割れ目間隔 密化あり。コアは1~5cmの片心を呈する。割れ目面には、磁化磁球と磁化磁球の付着が認められる。付着量は多量に発達する。 34.77m: 45~12mm, 46°程度。黄白矽化粘土塊 (2/3から逆側層)。 34.93m: 割れ目沿いに岩質劣化。岩石にはマシアンが付着。割れ目角が小さくなる。
	30.44			b	IV	B	γ	2				
	30.62				V		C					
	30.76				V	IV						
	31.27				C	III	B					
31	31.27		7.5YR 明礫灰	C	III	B		13	13	C _M	<ul style="list-style-type: none"> 31.55~31.73m: 40°と46°以上の割れ目角 3~5cm間隔で発達し。コアは片心短柱状を呈する。 32.40~32.67m: 45~60°の割れ目角 1cm間隔で発達し。割れ目沿いに岩質劣化が進行する。一部は岩石組織不明瞭となる。 32.67付近: 40~50°の割れ目角 片心不規則な割れ目角 1~2cm間隔で発達し。コアは片心を呈する。割れ目沿いに岩質劣化が認められるが、岩石は硬質である。 32.67~32.91m 上下位と比べて割れ目間隔が広くなり、コアは片心短柱状を呈する。 32.91~32.01m 不規則な割れ目角で発達する。30% 32.01~35.14m: 硬質片心短柱状コアを主体とする。45~60°の割れ目角 3~6cm間隔で発達するほか、45°以上の高角割れ目角 30~60cm間隔で発達する。一部割れ目沿いに岩質劣化し、粗粒状を呈するところがある。 33.72m: 45°の割れ目角に黄白矽化粘土付着。コア採取時材料を洗出し、詳細は別用。 34.20~34.46m: 割れ目間隔 密化あり。コアは1~5cmの片心を呈する。割れ目面には、磁化磁球と磁化磁球の付着が認められる。付着量は多量に発達する。 34.77m: 45~12mm, 46°程度。黄白矽化粘土塊 (2/3から逆側層)。 34.93m: 割れ目沿いに岩質劣化。岩石にはマシアンが付着。割れ目角が小さくなる。 	
	31.55			C	III	B						
	31.93				III	B						
	32.15				III	B						
	32.40				IV		C					
32	32.15		7.5YR 明礫灰	C	III	B		15	15	C _L	<ul style="list-style-type: none"> 32.67~32.91m 上下位と比べて割れ目間隔が広くなり、コアは片心短柱状を呈する。 32.91~32.01m 不規則な割れ目角で発達する。30% 32.01~35.14m: 硬質片心短柱状コアを主体とする。45~60°の割れ目角 3~6cm間隔で発達するほか、45°以上の高角割れ目角 30~60cm間隔で発達する。一部割れ目沿いに岩質劣化し、粗粒状を呈するところがある。 33.72m: 45°の割れ目角に黄白矽化粘土付着。コア採取時材料を洗出し、詳細は別用。 34.20~34.46m: 割れ目間隔 密化あり。コアは1~5cmの片心を呈する。割れ目面には、磁化磁球と磁化磁球の付着が認められる。付着量は多量に発達する。 34.77m: 45~12mm, 46°程度。黄白矽化粘土塊 (2/3から逆側層)。 34.93m: 割れ目沿いに岩質劣化。岩石にはマシアンが付着。割れ目角が小さくなる。 	
	32.40				IV		C					
	32.67				V		C					
	32.91				IV	B	γ					
	33.01				V	C	δ					
33	33.01		7.5YR 明礫灰	C	V	C	δ	26	15	C _L	<ul style="list-style-type: none"> 33.72m: 45°の割れ目角に黄白矽化粘土付着。コア採取時材料を洗出し、詳細は別用。 34.20~34.46m: 割れ目間隔 密化あり。コアは1~5cmの片心を呈する。割れ目面には、磁化磁球と磁化磁球の付着が認められる。付着量は多量に発達する。 34.77m: 45~12mm, 46°程度。黄白矽化粘土塊 (2/3から逆側層)。 34.93m: 割れ目沿いに岩質劣化。岩石にはマシアンが付着。割れ目角が小さくなる。 	
	33.72				V		C					
	34.20				IV	B	γ					
	34.46				IV	B	γ					
	34.77				V	C	δ					
34	34.77		7.5YR 明礫灰	C	V	C	δ	35	15	C _L	<ul style="list-style-type: none"> 34.93m: 割れ目沿いに岩質劣化。岩石にはマシアンが付着。割れ目角が小さくなる。 	
	34.93				V		C					
	34.93				V		C					
	34.93				V		C					
	34.93				V		C					
35	34.93		7.5YR 明礫灰	C	V	C	δ	35	15	C _L	<ul style="list-style-type: none"> 34.93m: 割れ目沿いに岩質劣化。岩石にはマシアンが付着。割れ目角が小さくなる。 	
	34.93				V		C					
	34.93				V		C					
	34.93				V		C					
	34.93				V		C					

調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 (35 ~ 40)		8/14								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
35	35.11		GP	明礫灰	III	e	r	2				<p>○ 35.14 ~ 35.74 m 割れ目間不規則な割れ目に発達し、風化・変質により岩質が劣化する。全体に赤色帯がある。</p> <p>○ 35.20 ~ 35.50 m 同様に不規則に劣化部分が分布し、コアは、砂礫~片状を呈する。</p> <p>○ 35.59 m 中1-3mm、$\angle 50^\circ$ 程度の黄白粘土混じり砂。下盤側にマンガン汚染が認められる。</p> <p>○ 35.64 ~ 35.91 m 密着細粒割れ目により酸化汚染が認められる。</p> <p>○ 35.88 ~ 36.09 m 密着割れ目により酸化汚染は認められる。コアは石炭質短柱状を呈する。</p>
	35.44			10YR 7/1 灰白	C	14						
	35.62				V		6	3				
	35.74				2.5YR 7/1 明礫灰	IV			2	20		
	35.88					IV						
	36.01					IV						
	36.43					IV						
	36.43					V	C				Cl	
	36.72					IV						
	37.07					V				0	19	
36	37.32			IV							<p>○ 36.43 ~ 37.52 m $\angle 50^\circ$ 程度の割れ目の他、不規則に割れ目間分布し、コアは、砂~片状を呈する。割れ目面は、黄褐色化する。岩片は石炭質で、コアを採取時、軟質細粒物を流失している。</p> <p>○ 37.20 m 岩片に灰白シルトが付着する。</p> <p>○ 37.52 ~ 37.89 m 割れ目間の岩質劣化が進行し、コアは、石炭質~片状を呈する。マサ部では、割れ目、岩組織が不明瞭となる。</p> <p>○ 37.89 ~ 38.10 m 割れ目間、中1cm 間隔細粒に発達し、割れ目沿いに酸化汚染が認められる。割れ目の多くは密着割れ目、ハンマーで打たれ分離する。</p> <p>38.10 ~ 38.27 m 破砕帯: 石炭質泥砂状破砕部(Hj)</p> <p>○ 38.10 ~ 38.27 m 破砕帯(Hj) 上端40°、下端50°、中1cm 程度、シルト・細砂の混じり(至中細砂)を呈する。下位ほど、シルト・粘土成分が多くなる。</p> <p>○ 38.10 ~ 38.19 m 同様に灰白色、38.19 ~ 38.27 m は淡黄白色を呈する。</p> <p>○ 38.27 ~ 38.67 m 微細な細粒割れ目間発達し、割れ目により酸化・マンガン汚染が認められる。</p> <p>○ 38.67 ~ 39.21 m 全体に割れ目、岩組織が不明瞭で、白色、淡赤白色粘土状、不規則に分布する。全体に軟質で針貫入可能である。(一部砂礫混じり)の岩相を呈する。</p>	
	37.52			IV								
	37.78			C	V	D	8	3				
	37.89			10YR 7/1 1.5mm 黄礫	V	C	8	2	0	6		
	38.10				V	C	8	2	0	6		
	38.19				d	VI	E	4		Hj		
	38.27			2.5YR 8/3 浅黄礫	C	V	D	3				
	38.52				C	V	D	3				
	38.67				d	VI	E	4		D		
	39.21				V	D	8	2	0	5		
37	39.35		2.5YR 7/1 明礫灰		V	D	8	2			<p>○ 37.07 ~ 37.52 m 割れ目間の岩質劣化が進行し、コアは、石炭質~片状を呈する。マサ部では、割れ目、岩組織が不明瞭となる。</p> <p>○ 37.89 ~ 38.10 m 割れ目間、中1cm 間隔細粒に発達し、割れ目沿いに酸化汚染が認められる。割れ目の多くは密着割れ目、ハンマーで打たれ分離する。</p> <p>38.10 ~ 38.27 m 破砕帯: 石炭質泥砂状破砕部(Hj)</p> <p>○ 38.10 ~ 38.27 m 破砕帯(Hj) 上端40°、下端50°、中1cm 程度、シルト・細砂の混じり(至中細砂)を呈する。下位ほど、シルト・粘土成分が多くなる。</p> <p>○ 38.10 ~ 38.19 m 同様に灰白色、38.19 ~ 38.27 m は淡黄白色を呈する。</p> <p>○ 38.27 ~ 38.67 m 微細な細粒割れ目間発達し、割れ目により酸化・マンガン汚染が認められる。</p> <p>○ 38.67 ~ 39.21 m 全体に割れ目、岩組織が不明瞭で、白色、淡赤白色粘土状、不規則に分布する。全体に軟質で針貫入可能である。(一部砂礫混じり)の岩相を呈する。</p>	
	39.63				IV	C	Y	2		Cl		
						V	D	8				
						V	D	8				
39	39.21		2.5YR 7/1 明礫灰		V	D	8	2			<p>○ 39.21 ~ 41.29 m $\angle 30^\circ$ ~ 50° の割れ目と不規則な割れ目間発達する。割れ目により酸化・マンガン汚染が認められる。コアは、岩片状を呈し一部に石炭質部を塊状に残す。割れ目の多くはシルト状の白色~黄褐色シルトで充填されている。</p> <p>○ 39.21 ~ 40.13 m 割れ目間の多くは黄褐色化する。</p>	
					V	D	8					
40					V	D	8					
					V	D	8					

調査名		孔番・深度		観察日									
		B14-2 (40 ~ 45)											
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				FOD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					
40	40.03		Gp	7.5YR 7/1 明 福 灰	C	D	8	2				Cl	<ul style="list-style-type: none"> 40.25~40.31m 変質帯。上端$\angle 40^\circ$、下端$\angle 60^\circ$で斜交す。 灰白粘土の混じり粗砂~細砂、灰となる。(粗砂石灰) 石英粒。 上下位のコアは中10~20mm 片~7灰色と呈す。
	40.18												
	40.33												
41	41.29				C	IV	B	Y	2	0	5	Cl	<ul style="list-style-type: none"> 41.29~42.13m 上^下位と比べて、風化・変質の程度弱く、コア表面滑らか。 $\angle 30\sim 50^\circ$の割れ目片 1~10cm 間隔で発達し、コアは片~短柱状と呈す。 41.65~41.74m 割れ目密集し、コアは片~脆弱と呈す。
	41.65												
	41.74												
	41.89												
	42.04												
42	42.13				C	IV	B	Y	2	10	10	Cl	<ul style="list-style-type: none"> 42.13~42.71m 風化・変質の影響を強く受け、コアは軟弱となる。特に42.37~42.47m間は上下端$\angle 45^\circ$の割れ目境界あり、岩組織、割れ目消失す。(Hj様記述参照) 42.71~43.51m 片~柱状コアと呈し、中粒鉄質、ハニテ打粉で、金色の金属音を発す。 43.00~43.51m間では不規則に岩片状、風化変質片進行し、コアは粗砂~片~7灰色と呈す。 43.51~43.81m 風化・変質の影響を強く受ける。一部に石灰D相結晶の岩片と砂粒。多くは針入り可能である。上端($\angle 60^\circ$)には$\phi 8\sim 10$mm 砂(泥状)シルトが分布す。
	42.27												
	42.37												
	42.47												
	42.71												
43	43.00		10YR 6/2 灰 黄 石	C	IV	D	8	3	0	5	Cl	<ul style="list-style-type: none"> 43.81~44.08m 上^下位と比べて風化・変質の程度は強いが、$\angle 80^\circ$以上の割れ目は殆ど土不化す。片~細柱状、割れ目発達し、コアは脆弱である。 44.08~45.25m $\angle 15^\circ$程度の割れ目片 2~3cm 間隔で発達す。片~$\angle 80^\circ$以上の割れ目が分布し、コアは片状と呈す。割れ目沿いに多少岩質劣化あり。岩片は硬質である。 43.25~43.63m 硬質粒状コア。 44.63~45.20m 割れ目沿いの風化・変質片進行し、コアは石炭~片状と呈す。岩片は硬質、左の片が多い。一部は指圧で崩れるほど軟弱なものもある。 下端は、$\angle 62^\circ$の割れ目で下位と境界あり。 割れ目には、中々mm 砂、細砂(泥状)粘土が挟みこまれ、周囲のコアには、白雲母が散在す。 45.00~45.20m D級岩盤 	
	43.19												
	43.51												
	43.81												
	44.08												
44	44.08		7.5YR 6/1 福 灰	C	V	D	8	2	13	13		<ul style="list-style-type: none"> 44.08~44.25 7.5YR 6/1 福灰 	
	44.25												
	44.63												
45													

調査名		孔番・深度		観察日												
		B14-2 (45 ~ 50)		8/20												
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				変質	ROD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等		
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化								
45	45.20		Gp	75YR 6/1 褐灰	d	VI	E	8	3			CL		<ul style="list-style-type: none"> 45.00~45.20m 風化・変質が強く受け、割れ目 細小 岩組織の一部が不明瞭になる。 45.20~45.76m. $\angle 50\sim 60^\circ$ の割れ目あり、2~10cm 間隔で発達し、コアは、割れ目 柱状を呈する。 割れ目には、LH・LH' 基盤土砂状物も存在する。岩片は硬質である。 45.90~47.37m. 風化・変質もやや強く受け、一部割れ目。岩組織もやや不明瞭になる。 		
	45.76					III	B	Y	2						CM	
	45.90					IV	C									CL
	46.07					V	D			8	3					
	46.17															CL
46	46.44										CL	<ul style="list-style-type: none"> 46.07m: 中12mm, $\angle 35^\circ$ シルト質砂 存在。 46.10~46.17m. マンガン浸染が認められる。割れ目、岩組織不明瞭であるが、コアは硬質。 46.20m: 中1.6mm, $\angle 83^\circ$ 砂泥(リ)シルト 存在。 46.44m 以下 砂: 変質の程度が弱く、上位と比べて、割れ目間隔が広くなる。 47.03m. 中3mm, $\angle 34^\circ$ 砂泥(リ)シルト 存在。 				
	46.74									CL						
	47.03												CL			
	47.21									CL						
	47.37												CL			
47	47.55										CL	<ul style="list-style-type: none"> 47.37~47.40m 破砕帯 (主断面) $\angle 37, 40^\circ$ 47.37~47.40m 破砕帯 (Hb) $\angle 45^\circ$ 上端40°, 下端45°, 中20, 25 灰白 砂泥シルトを主とし、中1~3mm 粘板粘土を挟む。 上端は凹み、下端は凸み。 Hb は、灰白~褐色、砂泥(リ)砂である。 47.40~49.24m 全体に、変質作用が進行し、コアはシルト質の砂礫状を呈する。 岩片は硬質であるが、細粒に粗~シルト用(灰)分布し、コアは全体に脆弱である。 				
	47.87									CL						
	48.09												CL			
	48.41									CL						
	48.58												CL			
48	48.86										CL	<ul style="list-style-type: none"> 47.53m 中3mm, $\angle 50^\circ$. 灰白 変質粘土を挟む。 47.70~48.87m. $\angle 80\sim 90^\circ$ 割れ目に沿って、著しく変質する。(細粒に進行) 48.09m 中3~5mm, $\angle 72^\circ$. シルト質砂。 48.09~48.86m 間、細粒に、変質粘土が層状に発達し、コアは、粘板砂礫~ 状を呈する。 岩片は風化・変質は認められず。 				
	49.17									CL						
	49.24												CL			
	49.27									CL						
	49.55												CL			
49	49.64										CL	<ul style="list-style-type: none"> 49.24~49.55m 破砕帯 (主断面) $\angle 49, 23^\circ$ 49.24~49.27m 砂泥(リ)粘板(He-2). 上端は凸み、(20°前後) 下端$\angle 35^\circ$. 中15~25mm. 灰~灰白 砂泥(リ)粘土を主とし、上端は灰白、下端は(凹み) 灰色に漸移する。 49.27~49.42m 粘板(リ)砂礫(He-1). 上端は上記破砕帯と接し、下端は$\angle 35^\circ$を呈す。粘土組織が$\angle 40\sim 60^\circ$で多数分布する(砂) Hb~He-2 相当の粘層を挟む。 変質進行し、コアは 緑灰色を帯びる。 49.42~49.45. Hb 相当。上端$\angle 50^\circ$. 下端$\angle 20^\circ$. 上下端に、粘板粘土、0.3~5mmを挟む。 49.50m. He-2 相当。中5~8m, $\angle 45^\circ$. 白~淡黄白 砂泥(リ)粘土。 49.55~49.64m. 風化・変質は弱く、コア表面粗く、脆弱。 				
	49.70									CL						
	49.85												CL			
	49.92									CL						
	50													CL		

調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 (50 ~ 55)		8/20 8/27								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長 ROD	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
50	50.27 50.50		Gp	75YR 5/1 褐灰	C 27 V	IV C	γ	2		CL	<p>49.69 ~ 50.50 m. <math>L40 \sim 50^{\circ}</math>の割れ目状、1~3cmで発達している。 <math>L75^{\circ}</math>以上の高角割れ目状が分布する。 コア採取時に紅土。コアは、1~5cmの片状を呈する。 上位と比較して、風化変質の程度は弱く、比較的良好的な岩盤と考えられる。</p> <p>50.50 ~ 51.43 m. コア落下、回収不能。</p>	
51	51.43								0	0		
52	52.74 52.36 52.60 52.92			5YR 6/1 褐灰	C 39 C	V D	γ	3	0	7	<p>51.43 ~ 52.36 m. <math>L55 \sim 75^{\circ}</math>の割れ目状、0.3~2cm間隔で発達し、コアは、細片~片状を呈する。 全体にやや変質し、粘土類は緑灰色化し、コアも灰色を帯びる。 コアは脆弱で、1m程度で細片状に砕ける。</p> <p>51.89 ~ 51.92 m. 中17mm、<math>L40^{\circ}</math>、シルト・細砂混入の砂。</p> <p>52.14 ~ 52.36 m. コアは片状を呈する。岩片は石炭後と推定。</p> <p>52.36 ~ 52.92 m. <math>L25 \sim 25^{\circ}</math>の割れ目状、0.5~5cm間隔で発達し、コアは片~短柱状を呈する。</p>	
53	52.92 53.13 53.29 53.33 53.53 53.56			75YR 7/1 明褐灰	C 53 C	VI D	E	δ	0	8	<p>52.92 ~ 53.33 m. 上位と比較して、風化・変質進行し、コアは軟弱を呈している。特に52.92~53.13m付近、割れ目・岩組織が不明瞭となっている。</p> <p>53.33 ~ 53.35 m. 軟弱層、中20~25mm、上下端^{15°}傾度。 〔上側は、中5~15mm粘土後石少絮状、(H1)〕 〔下側は、中5~15mm砂・細砂混入の粘土状、(H2)〕 11°傾度、灰白色、見出し正断層。</p> <p>53.35 ~ 53.82 m. <math>L25^{\circ}</math>、赤土<math>L45^{\circ}</math>の割れ目状、5~20cm間隔で発達し、コアは細片状を呈する。全体に変質を呈する。 11°傾度の割れ目状にウレム状の白色粘土を挟み込んでいる。</p>	
54	53.56 54.49			5YR 6/1 褐灰	B 48	IV C	β	2	0	7	<p>53.82 ~ 54.40 m. 密着した、<math>L38^{\circ}</math>、赤土<math>L80^{\circ}</math>の割れ目状、3~5cm間隔で発達する。コアは、石炭後柱状を呈する。割れ目状の酸化現象は軽微である。</p> <p>54.40 ~ 54.40 m. 上位に比べて、割れ目状の腐食化がみられる。微細な割れ目も発達する。特に54.10 ~ 54.17mは微細な割れ目状が露出し、軟弱を呈している。 割れ目状に沿って風化が進行する。</p>	
55	54.49											
56												

調査名		孔番・深度		観察日							
		B14-2 (55.00 ~ 60.00)		8/27							
標尺 (m)	深度 (m)	境界亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
	55.40		明赤灰	IV	C	40	40				55.40~55.84m 上下地之比で岩盤が化し、軟質化している(一部硬質化岩(緑泥石)も残存)。表石類は変質し、全体として赤色を帯びる。割れ目状態も上下地之比で大きく、亀裂状の割れ目、微細な割れ目とマンガン汚染が認められる。
	55.84		明赤灰	V	D	50	50		CL		
56			明赤灰	IV	C	40	40	0	5		55.84~56.62m 上下地之比で風化作用により岩盤が化し、軟質化している。傾斜方向及び水平方向の割れ目がみられる。表石は断片部がみられる。割れ目沿いには褐色化が認められる。
	56.57		明赤灰								
57	57.05		明赤灰					A	A		56.62~57.42m 変質作用による。上下地之比で、割れ目及び割れ目周辺に暗緑色鉄物が見られる。
	57.42		明赤灰	V	C	40	40				57.42~57.68m 上下地之比で、変質作用により岩盤が化し、軟質化している。表石類の大半は緑泥石(緑泥石?)に変質する。
	57.68		明赤灰	V	D	50	50				57.68m 割れ目沿いにはマンガンが濃集(最大幅2mm)、周囲の微細な割れ目にはマンガン汚染が認められる。
58	58.00		明赤灰	IV	C	40	40	0	4		57.68~58.00m 上下地之比で、変質作用により岩盤が化している。
	58.60		明赤灰	IV	C	40	40				58.00~58.50m 上下地之比で、岩盤が化している。割れ目沿い及び表石の酸化汚染が認められる。
	58.78		明赤灰	D	D	70	70				58.50~58.78m 変質作用により、表石類は暗緑色鉄物に変質し、軟質化している。傾斜方向の割れ目が微細化している。
59	59.05		明赤灰	C	C	20	20	12	12		58.78~59.05m 上下地之比で、変質作用により岩盤が化している。破砕している。
	59.25		明赤灰	V	D	50	50				59.05~59.25m 上下地之比で、変質作用により、岩盤が化し、軟質化している。表石類は暗緑色鉄物(緑泥石?)に変質する。
	59.55		明赤灰	IV	C	40	40				59.25~59.55m 上下地之比で、岩盤が化している。割れ目同様の3cm以下で微細な割れ目及び亀裂状の割れ目、上部(59.90m付近)には、マンガン及び暗緑色鉄物に伴う酸化汚染が認められる。下部(60.00~60.05m)
60				V	C	50	50	0	3		

調査名				孔番・深度		観察日																		
				B14-2 (60.00 ~ 65.00)		8/27																		
標尺 (m)	深度 (m)	境界亀裂位置	地質名	細区分						最大寸長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等											
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質					RQD										
61	60.65		Gp	5FR 5/1 赤灰	c	V	c	f	2	0	3	Hj	<p>2.12 割れ目沿いに細粒化がみられ 鉄を伴った層が5層、連続した。</p> <p>上下部と別に割れ目沿いの細片化がみられる</p> <p>60.65m ~ 150.0m. 了70%以内</p> <p>(主断面: 61.12)</p> <p>60.85 ~ 61.12 破砕帯 上盤40° 下盤43° 0.1-0.5 連続した層</p> <p>60.85 ~ 61.11 m 赤色泥岩の層状破砕部 (厚さの粗粒化) 連続した</p> <p>3. 層状破砕 (硬さ) (1/1 相当)</p> <p>61.12</p> <p>61.12 ~ 63.47 m. 30° ~ 40° 及び 70° の割れ目と並行した斜交した微細な割れ目がみられ、一部亀裂状にみられ、主要な割れ目は互に交差して腐食汚染を受けた褐色土層を示す。若しくは新鮮部のみみられる。</p> <p>割れ目沿いには細粒化、一部は粗粒化した。</p> <p>62.97 ~ 63.09 m. 割れ目密集し脆弱。下端 45° 附近に粗粒化。</p>											
	60.85																							
	61.12																							
62	62.97		Ap	5FR 6/1 赤灰	c	V	c	f	2	0	3	Ct	<p>63.47 ~ 64.15 m. 上位を以て、割れ目間隔広 (中5~10cm) コアは柱状を示す。割れ目沿いには粗粒化が認められるが、コア自体は破砕がない。</p>											
	63.09																							
	63.47																							
64	64.15				c	V	D	δ	2	10	20	10	Cm	<p>64.15 ~ 64.82 m. 40° ~ 50° の割れ目、3 ~ 10 cm 間隔で分布し、互に平行、互に斜交、潜在割れ目、発達する。</p> <p>潜在割れ目は容易に分離しないが、ハンマーの打撃で中程度の音を発する。</p> <p>64.26 ~ 64.51 m 上下位を以て、変質が進行した。上端 45°、下端 60° 程度で境域。</p>										
	64.26																							
	64.51																							
65	64.82				c	V	V	γ	2	10	10	Cl	<p>64.82 ~ 65.32 m. 43° ~ 45° 付近に 70° の割れ目、1.3cm 間隔で発達し、コアは柱状を示す。潜在割れ目沿いの変質は白土層で表れている。</p>											

岩体経路 14114

調査名		孔番・深度		β14-2 (65 ~ 70)		観察日						
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
65			Ap	5YR 6/1 粘灰	C	V	C	γ	2			○ 65.32 m. 片状状中6mm L45°. 灰白砂泥(シ)粘土. ○ 65.32~65.86m. 上下位と比べて. 風化・変質進行し. コアは脆弱化する. 割れ目細かい脱色. 細片化が認められ. 赤褐色. 粘土が粘化している. 又. 有色鉱物同様に粘土を粘化している. ○ 65.67~65.86m. コアは岩花まで変質(脱色)が進行し. 灰白~浅黄色を呈する.(2.5Y7/2~7/6). ○ 65.85m. 中1mm. L34°. 灰白粘土. 粘. マンガン濃集を伴う.
	65.32			2.5YR 7/1 明粘灰			P	δ	67		CL	
	65.67								3			
	65.86											
	66.06									0	5	
	66.35						IV				66.35	
	66.53											
	66.81									10		
	66.85										66.85	
	67											
67.22												
67.30												
67.38												
67.51												
68												
68.23												
68.53												
68.77												
69												
69.42												
69.72												
69.80												
69.96												
70												

調査名		孔番・深度		観察日											
		B14-2 (70 ~ 75)		8/28											
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等		
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質						
70	70.05		Ap	5YR 6/1 褐灰	d	VI	D	8	3	10	10	CL		<p>70.03 ~ 70.33m 割れ目が多く、それ以外の割れ目による結晶組織は不明瞭となった。全体に粘土細脈が分布し、コアは軟弱である。 (カクラー割れ目・Hj様を呈す) 70.03 ~ 70.14m マンガンが浸染する。一部は指圧で崩れる。</p> <p>70.16m 70°の断層性割れ目、岩塊が切れている。</p> <p>70.33 ~ 70.88m 240°程度の割れ目が卓越し、0.5~4cm間隔で発達する。割れ目の密度が低く、ここでは地変換が進行していない。コアは板状、片~短柱状で採取される。岩片は石炭質である。</p>	
	70.33														
	70.50				V										
	70.88				C	IV	C	Y	2						
	71.05				d	VI	D	8	3						
71	71.05		Ap	5YR 7/1 明褐灰	C	IV	C	Y	2	10	10	CL		<p>70.88 ~ 71.05m 上位と比べて、風化・変換が進行し、コアは軟弱化している。70.88 ~ 70.93mは、指圧で変形するほど軟弱で、Hj様を呈す。上端は、コア断端より不明、下端はL40</p> <p>71.05 ~ 71.32m 風化・変換の程度が低く、コアは硬質である。</p> <p>71.32 ~ 71.79m 上下位と比べて、変換が進行し、コアは軟弱である。コア表面粗い。</p> <p>71.79 ~ 72.14m 240~60°の割れ目が交錯し、コアは、片状を呈す。割れ目沿いに細粒化が認められるほか、酸化・マンガン浸染もあわせて認められる。</p>	
	71.32														
	71.66				D										
	71.79				V										
	72.14				IV	C	Y	2							
72	72.14		Ap	5YR 7/1 明褐灰	B					10	10	CL		<p>72.14m 240°の1~2mm程度に板状砂岩のシルト状、白雲母が混入する。</p> <p>72.14 ~ 72.70m 220~30°の割れ目が、1~10cm間隔で発達する。割れ目沿いに岩質劣化が認められ、コアは石炭質、Hj様を呈す。</p> <p>72.70 ~ 73.53m 250°程度の70°以上の高角割れ目が、5~10cm間隔で発達し、コアは柱状を呈す。</p> <p>73.00 ~ 73.17mは、地変換(膜色)し、上下位と比べて軟弱となっている。73.13mの割れ目(240°)は、褐色化し、周囲も褐色化している。</p>	
	72.59														
	72.76				V										
	73.00				IV	C	Y	2							
	73.17				b	III	B	Y	2						
73	73.17		Ap	5YR 7/1 明褐灰	C					10	10	CL		<p>73.53 ~ 73.74m 240°の割れ目が、1~5cm間隔で発達し、割れ目沿いに、変換が進行する。割れ目面は、粘土質を呈し、白雲母を伴う。</p> <p>73.62 ~ 73.63m 10mm程度の240°割れ目間、変換による帯状の有色鉱物は褐色化し、全体は軟弱化している。</p> <p>73.74 ~ 74.95 240~50°の割れ目が、2~15cm程度の間隔で発達する。割れ目面は、粘土質に、緑灰色化が認められ、岩片は新鮮。コアは、片~柱状を呈し、石炭質である。</p>	
	73.59														
	73.74				V										
	73.93				C										
	74.30				IV	C	Y	2							
74	74.30		Ap	5YR 7/1 明褐灰	B					10	10	CL		<p>74.30m ~ 74.95m 割れ目間隔が広く、コアは柱状を呈す。</p>	
	74.49														
	74.95				IV	C	Y	2							
75	74.95			V											

調査名		孔番・深度		B14-2 (75 ~ 80)		観察日		8/29						
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質					RQD
75	75.05		AP	5YR 7/1 明 褐 灰	C	V 05	B	Y	Z				75.24~75.91m L40° 割れ目 L75° 程度の割れ目状発達し、 此れと斜交する潜在割れ目状分布する。 割れ目、断面に潜在割れ目沿いに岩質劣化し、上下位と比べて脆弱である。 75.35m付近、L35°の割れ目沿いに、中8~20mm 岩質劣化し土砂状を呈する。コア採取時細粒分を一部流失する。	
	75.24				IV									
	75.50				V						11			CL
	75.74				IV						14			
	75.91				V						14	75.91		
76	76.27					IV	B						75.91~77.97m L40~60° の割れ目状、5~20cm 間隔で発達する。 割れ目沿いに、変質(脱色)し、割れ目面は白〜灰白色を呈する。 コアは硬質で、短柱~柱状を呈する。 76.27m 以下、潜在割れ目は、少なくなった。 77.00~77.97m、割れ目間隔が広くなり、コアは長柱状を呈する。 77.38m、L40° 割れ目断面に、黄鉄鉱が濃集する。	
	76.54													
	76.70				b	III					12			Cm
	77.00				IV						14			
	77.17				III						14	77.00		
77	77.17		2.5Y 7/1 灰 白			III							77.91~78.25m、L40~60° の不規則な高角割れ目状発達し、コアは片状を呈する。 割れ目沿いに細粒化、脱色が認められるが、岩片は硬質。 78.25~79.14m、L20~40° の割れ目状、2~10cm 間隔で発達し、コアは、片~短柱状を呈する。 割れ目面は褐色化を以て、緑灰色化し、多数の割れ目には白雲母を伴う。 割れ目沿いに細粒化し、割れ目の割合も変化する。 78.44~78.61m、割れ目交錯し、コアは、片状を呈する。	
	77.41													
	77.91				91						20	77.91		
	78.25				C		B				53			CL
	78.44				V									
78	78.61		明 褐 灰			IV		Y					78.25~79.14m、L20~40° の割れ目状、2~10cm 間隔で発達し、コアは、片~短柱状を呈する。 割れ目面は褐色化を以て、緑灰色化し、多数の割れ目には白雲母を伴う。 割れ目沿いに細粒化し、割れ目の割合も変化する。 78.44~78.61m、割れ目交錯し、コアは、片状を呈する。	
	79.14													
	79.42				V						10	79.14		
	79.64				IV									Cm
	79.79				V									
79	79.14		2.5YR 6/1 褐 灰			V							79.14~79.79m L40~50° の割れ目状、1~3cm 間隔で発達し、コアは片状を呈する。割れ目沿いに脱色・緑灰色化を進行する。コア採取時、細粒物を流失している。 79.42m 中5~10mm、L20° 灰色帯、石英の粒が散在。 79.64~79.79m 上下位に比して、変質と強く受け、コアは軟弱化している。又、割れ目沿いの褐色化が目立つ。 79.77m 中8mm、L40° 褐色~暗褐色を呈する。コアは砂状を呈する。 79.77~79.79m、中10mm、L40°	
	79.42													
	79.64													
	79.79				D						3	79.79		
	79.79				IV		B	β			2	0		3
80														

調査名		孔番・深度		観察日									
		B14-2 (80 ~ 85.)		8/29									
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破碎度区分	記事・破碎性状・詳細スケッチ等	
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質
80			AP	7.5YR 6/1 福灰	C	IV	B	γ	2				77.79~82.13 40~50°の割れ目粗さ 3~8cm 間隔で発達し、 コアは短柱状を呈する。割れ目面の一部は、カーク灰色を呈し、 白雲母を伴う。 割れ目沿いに脱色外認められるが、岩質は不変である。 80.63m~81.47m、70°以上の高角割れ目が発達する。 割れ目面凹凸し、風化変質、採集物は認められない。
81									6	3			81.25m、24°、中1-2m、黄鉄鉱が割れ目面に付着する。 81.40~81.76m、230~50°の割れ目粗さ交錯し、コアは片状を呈する。 割れ目沿いに細粒化し、コアの割れ目も悪い。 〔コア界面上による(?)〕
82	82.03 82.05 82.13 82.40			82.40 5Y5/1 福灰	b	III	β		2	11	11	82.13	82.13~83.59m、上位に比べて、割れ目間隔(粗さ) (10~20cm) 程度 40~50° コアは柱状を呈する。 割れ目面は緑白~カーク灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が 認められる。 また、割れ目沿いに赤褐色の結晶が割れ目沿いに脱色外認め られる。
83	83.03 83.59 83.77 83.88			83.03 10YR 7/1 灰白	c	IV				26 20 15			83.88~83.03m、230~40°の割れ目粗さ密集し、割れ目沿いの 一部で細粒化する。 又、白雲母、黄鉄鉱の付着が目立つ。 83.59~83.88m、230~50°の割れ目粗さ 4~10cm 間隔で発達し、 不規則な高角帯が割れ目面に分布する。 上位と同様に、割れ目沿いの脱色外認められるが、 特に明確に認識できる。
84	84.54 84.83			84.54 5YR 6/1 福灰	b	III	β			18 17 19			83.88~84.54m、245°程度の割れ目粗さ 10~20cm 間隔で発達し コアは、柱状を呈する。コアは不変である。 84.16~84.45m には、70°以上の高角割れ目、外認められる が、連続性悪く消失する。 84.54m、245°割れ目面には、珪酸塩鉱物(石英?)の微晶が 晶出する。 84.54~84.83m、割れ目間隔(粗さ)が、割れ目沿いの岩質 劣化が目立つ。 (細粒化) 84.83m、240°割れ目粗さ 7cm~11cm 間隔で 細粒化(付着)。 84.83~85.06m、割れ目間隔 1~2cm 程度(密に)なり、上下位と 比べて変質進行し、コアは、軟弱となる。
85					c	IV			3	16 23 11			

調査名		孔番・深度		観察日										
		B14-2 (85 ~ 90)		8/29										
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	記事・破碎性状・詳細スケッチ等		
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質	RQD
85	85.06		Ap	SYR 6/1 褐灰	C	V	C	Y	3	30	CL	85.06 ~ 89.74, L30~40°の割れ目あり。5~30cm 間隔で発達し。コアは 粒状と主とする。 85.14~85.64m. 割れ目面の 変換は認められず。 85.28m. 中1.5mm. L35°. 石英脈。 85.59~86.28m. L60~70°の 密着 割れ目あり 発達し。 セメントに沿って 脱色する。 一部は開口(分離)し、細片化を伴う。 85.96~87.52m. 高角度で 湾曲した割れ目あり 分布する。 割れ目に沿って 細片・粗粒化し、86.58~87.00m. は 岩質劣化部を伴う。 また、86.50~86.58m 間は、割れ目面に、珪酸塩鉱物(石英)が 晶出する。		
	85.14	14			III	B	2	17	17				CH	
	85.28				b	B	2	17	17				CH	
	85.59													
	85.82													
86	85.96				C	V	C	Y	66	30	CM	85.96 ~ 87.52m. 高角度で 湾曲した割れ目あり 分布する。 割れ目に沿って 細片・粗粒化し、86.58~87.00m. は 岩質劣化部を伴う。 また、86.50~86.58m 間は、割れ目面に、珪酸塩鉱物(石英)が 晶出する。		
	86.27	27	III	B	2	13	13	CH						
	86.58		b	B	2	13	13	CH						
	86.82													
	87.00													
87	87.13				C	V	C	Y	58	39	CM	87.13 ~ 88.22m. L40~60°の割れ目あり 分布する。 87.61~88.31m. L40~60°の割れ目あり、セメントに沿って 脱色する。 割れ目面は オリーブ灰色を帯びる。 87.73m. L40° 割れ目面に 珪酸塩鉱物 が 認められる。 88.22m L43° 割れ目面、暗赤-ブドウ色化し、石英が 晶出する。 88.22~88.30m 間、珪酸塩 有色鉱物 が 多く 含み、コアは、暗色を帯びる。 88.90~89.09m L45° 程度の割れ目あり。0.5~3cm 間隔で 発達し、一部割れ目に沿って 粗片化する。 89.09m L43° 割れ目面は、気色化し、石英粒(0.03~0.5mm)が 晶出する。 89.42m L50° 割れ目より 石英 晶出する。 89.55m L46° 89.74~ 89.74m L35~55°の割れ目あり、2~6cm 間隔で 発達し。コアは 片状と主とする。		
	87.37	37	III	B	2	13	13	CH						
	87.61		b	B	2	13	13	CH						
	87.73													
	87.97													
88	88.22				C	V	C	Y	67	24	CM	88.22 ~ 88.30m 間、珪酸塩 有色鉱物 が 多く 含み、コアは、暗色を帯びる。 88.90~89.09m L45° 程度の割れ目あり。0.5~3cm 間隔で 発達し、一部割れ目に沿って 粗片化する。 89.09m L43° 割れ目面は、気色化し、石英粒(0.03~0.5mm)が 晶出する。 89.42m L50° 割れ目より 石英 晶出する。 89.55m L46° 89.74~ 89.74m L35~55°の割れ目あり、2~6cm 間隔で 発達し。コアは 片状と主とする。		
	88.31	31	III	B	2	13	13	CH						
	88.55		b	B	2	13	13	CH						
	88.79													
	89.09													
89	89.09				C	V	C	Y	63	22	CM	89.09 ~ 89.42m L43° 割れ目面は、気色化し、石英粒(0.03~0.5mm)が 晶出する。 89.42m L50° 割れ目より 石英 晶出する。 89.55m L46° 89.74~ 89.74m L35~55°の割れ目あり、2~6cm 間隔で 発達し。コアは 片状と主とする。		
	89.23	23	III	B	2	11	11	CH						
	89.42		b	B	2	11	11	CH						
	89.55													
	89.74													
90	89.74				C	V	C	Y	62	17	CL	89.74 ~ 89.74m L35~55°の割れ目あり、2~6cm 間隔で 発達し。コアは 片状と主とする。		
	89.91	91	III	B	2	11	11	CH						